

第4学年国語科学習指導案

日 時 平成27年11月18日(水) 5校時

場 所 今市っ子図書館

授業者 担任・学校司書

- 1 単元名 ミニ説明文でくらしの中の和と洋のよさアピール会をしよう
(教材『くらしの中の和と洋』東京書籍 4年下)

2 単元の目標

○くらしの中の「和」と「洋」に関心をもち、目的に応じて本を読み、進んで調べようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすることができる。

【読むこと】

○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

【読むこと】

○指示語や接続語の役割を理解し、使うことができる。

【言語に関する知識・理解・技能】

3 基盤

本教材は、くらしの中の「住」に焦点をあてて取り上げ、「和」と「洋」それぞれの違いや良さを、観点をはっきりさせて述べているため、対比構造が分かりやすい文章である。また、序論・本論・結論の文章構成が明確であるため、児童が調べたことを、文章構成を生かしてミニ説明文に書く活動へとつなげることができる。

本単元は、学習指導要領の3・4学年に示されている、C読むこと(1)エの「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」及びオ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」をねらいとしている。そこで、くらしの中の和と洋について本や資料を読んで調べ、説明文に書くという言語活動を位置づけた。二次で学んだ文章構成を生かして、三次では自分が選んだ図書資料を読み、必要な情報を考え、取捨選択しながら、自分の考えを明確にするために要約したり引用したりする力を身に付けられると考える。

本時は、まずはじめに自分の選んだテーマの調べた情報を付箋に書いて貼った「アピールカード」を、同じテーマを選んだ友達と確認し合う。同じテーマを選んだ友達と確認し合うことで、必要な情報を比べたり、和と洋のよさをさらに深めたりしやすいと考える。次に、自分に必要な情報を文章構成図(説明文の家)に整理する。友達の考えを参考にするときには、新たに付箋に書かせることで、文章構成図(説明文の家)にまとめる際の手がかりにできるようにする。

4 本単元と情報リテラシーの関わり

【つかむ】

本単元を貫く言語活動として「ミニ説明文でくらしの中の和と洋のよさをアピールしよう」という単元のゴールを最初に示すことで、学習の見通しをもたせる。また、一人ひとりの学習の足跡を残すために、「くらしの中の和と洋ブック」にまとめることを伝え、見本のブックを提示することで活動への意欲を高める。

学校司書による関連図書紹介を通して、くらしの中の「和」と「洋」への関心をもち、進んで調べようとする意欲を高める。

【さがす・えらぶ】

学校司書や司書教諭と相談し、児童が調べたいテーマに合った資料に出会えるようにする。

教材文の学習を行いながら、くらしの中の和と洋に関する関連図書の並行読書を行う。

児童が調べたい「和」と「洋」の情報を得ることができるようするために、百科事典の使い方と引用の仕方を司書教諭に紹介してもらおう。

目的に沿って調べたことを、「和」と「洋」それぞれ違う色の付箋（和が緑色、洋が黄色）に整理して書くようにする。調べた情報を付箋に書かせてくらげチャートに貼っていくことで、調べた内容を整理しやすいようにする。

【まとめる】

まとめる際の第一段階として、「アピールカード」を用いて自分の調べた特徴とそのよさを友達と確認し合う。その際、同じテーマを選んだ児童でグループを構成する。

第二段階として、和と洋のよさをアピールするために効果的な情報を考え、文章構成図にまとめることとする。

その後、文章構成図をもとに、教材文の文章構成を生かして「和」と「洋」それぞれのよさをアピールするための文章をまとめる。

「和」と「洋」のよさをアピールするための説明文の交流会では、違うテーマを選んだ友達と交流するようにする。

5 学校図書館活用教育との関連

教材名	単元のねらい
ヤドカリとイソギンチャク	段落と段落の結びつきを考えながら、文章のまとまりをとらえる。
くらしの中の和と洋	何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり要約したりする。
「ゆめのロボット」を作る	2つの文章を関係づけて読み、自分たちの生活とロボットとの関わりについて考える。

- ・学校図書館の本を活用。
- ・学校図書館で学習を行う。
- ・学校司書による本の紹介。
- ・司書教諭によるシンキングツールの紹介（くらげチャート）。
- ・司書教諭による百科事典の使い方指導。
- ・司書教諭による引用の仕方の指導。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<p>・くらしの中の「和」と「洋」に関心を持ち、それぞれのよさを伝えるために、目的に応じて本を読んで調べようとしている。</p>	<p>・和と洋のよさを伝えるために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりしている。</p> <p>・説明文を読んで考えたことを伝え合い、一人一人の感じ方の違いがあることに気付いている。</p>	<p>・指示語や接続語の役割を理解し、使っている。</p>

7 単元の指導と評価の計画（全14時間）

次	時	目標	学習内容	評 価				学校図書館との関連
				関	読	言	評価規準（評価方法）	
第一次	1 2 3	くらしの中の和と洋に関心を持ち、単元の見通しをもつことができる。	<p>○くらしの中にある「和」と「洋」の本を読む。 （学校司書による本の紹介）</p> <p>○百科事典の使い方を知る。 （司書教諭による百科事典の使い方指導）</p>	○			<p>【関】くらしの中の和と洋に興味を持ち、目的を意識して、本を読もうとしている。 （観察）</p>	○
第二次	4 5 6 7	教材文を読み、「和」と「洋」の比べ方や文章構成を読み取り、それぞれのよさについて引用したり要約したりすることができる。	<p>○「和」と「洋」をどのように比べているか、文章構成を読み取り、文章構成図に整理する。</p> <p>○「和」と「洋」のよさについて、教材文を引用したり、要約したりして、自分の考えを付箋にまとめる。</p>		○		<p>【読】比べる点や大事な言葉を手がかりに、段落相互の関係に注意して文章構成を読み取っている。 （発言・ワークシート・アピールカード）</p>	

第三次	8	取り上げる	○教科書の文章で読み取ったこと	↓	○		○	【読】自分の課題を解決するために必要な情報を集め、要約したり引用したりすることができる。 (アピールカード、文章構成図、説明文)	○
	9	調べる	○調べたい題材について、百科事典を用いて情報を得る。						
	10	観点を決め、必要な情報を集めることができる。	○必要な情報を集めて、付箋に書く。						
	11	集めた情報を引用したり、要約したりしながら、	○情報を付箋に整理したものでよさを確認し合い、文章構成図に整理する。						
	12	説明文にまとめることができる。	○説明文にまとめ、和と洋のよさのアピール会をする。						
	14		○学習の振り返りをする。		○		○	【言】指示語や接続語の役割を理解し、説明文の中で使うことができる。 (説明文) 【読】友だちとの交流会を通して、考えの違いに気付いたり、自分の考えを深めたりしている。 (ワークシート)	

8 本時の学習（第三次 11 時間目）

(1) 本時の目標

「アピールカード」を用いて自分が選んだ和と洋のよさを友達と確かめ合い、自分の考えを深めることができる。 【読む能力】

(2) 本時の学習展開

時間 (分)	主な学習活動と予想される児童の反応	○教師の支援 (○) と評価 (☆)
5	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「アピールカード」で和と洋のよさを確かめ合おう。</p> </div>	<p>○本時の流れを示すことで、学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>○自分の調べたことと比べながら聞くことができるようにするために、「衣」「食」「住」の中で同じテーマを選んだ児童同士を同じグループにする。</p>
20	<p>2. 「アピールカード」をもとによさを確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この情報だとよさが一番伝わると思うよ。 ・これは使い方についてのよさだね。 ・こんなよさもあるんだね。 	<p>○自分が使った図書資料も準備させておくことで、調べたことを振り返ることができるようにする。</p> <p>○自分が選んでいた付箋2つには印をつけさせておくことで、確認し合った後で情報を修正しやすいようにする。</p> <p>○説明文の構成につなげられるように、まとめごとに「小見出し」をつけるようにする。</p>
15	<p>3. 選んだ情報を説明文の家に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の家の本論に着方と使う場面の2つについて整理するといいな。 	<p>☆よさを伝えるための情報を友達に伝えたり、文章構成図に整理したりすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【読】（文章構成図、ワークシート）</p>
5	<p>4. 学習の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と確認し合ったことで、自分の選んだ情報でよさが伝わるのが分かったよ。 ・友達が言っていたよさも入れると、さらによさをアピールできるのが分かったよ。 ・次はいよいよ、説明文の家を使って、ミニ説明文を書くんだな。 	<p>○学習の振り返りには、友だちとよさを確認し合ったことにより、自分の考えの深まりや変化について、ワークシートに書くことを伝える。</p> <p>○次時は、文章構成図をもとに、よさをアピールするための説明文を書くことを伝える。</p>

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足と判断される児童の具体例	支援を必要とする児童の指導の手立て
よさを伝えるためのよりよい情報を友だちと確かめ合い、文章構成図にまとめることができる。	よさを伝えるための情報を友達に伝えたり、文章構成図に整理したりすることができる。	自分の伝えたいよさを支援者と一緒に確認しながら考える。

(4) 研究の視点

- ・アピールカードを用いてよさを確かめ合ったことや同じテーマを選んだ児童でグループを構成したことは、自分が選んだテーマのよさを深めるために有効であったか。